

地域包括ケア/包括的支援体制/重層的支援体制整備

見えない道を ともに探し ともに歩む

～支えられる人も、支える人も、独りにしない～

参加
無料

人を支援する現場は、うまくいかないことの連続です。支援の効果が見られず、支える人自身が悩み、迷い、限界に近づいてしまうこともあります。さらには限られた人員体制や予算の中で、何を優先すべきか。現場の声をどう受け止め、どう形にするのか。自治体職員自身もまた、見えない道の中で決断を迫られています。だからこそ、当事者にも、支援者にも、自治体職員にも「一緒に考えてくれる存在」が必要なのではないでしょうか。本報告会では、本プログラムに参加した全国15の自治体が、仲間と共に検討を重ねた半年間の軌跡を報告します。検討過程の試行錯誤は、きっと皆さまの地域の取組のヒントとなるはずです。



日時

2026年2月24日(火) 13:30▶17:00

会場

Zoomウェビナー
(オンライン)

対象

地域包括ケア・包括的支援体制・重層的支援体制整備事業に関わる市町村職員や地域関係者及び 都道府県・厚生局・大学・民間企業等

申込

事前登録制（後日動画配信有） 申込期日 2月20日(金)

※右記URL又はQRコードよりお申し込みください。
※自治体のデバイスからのアクセスが難しい場合は、個人のスマートフォン等、他のデバイスからご登録ください。
※後日記信希望の方も上記より事前登録をお願いします。

お申し込みはこちらから▶

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_nTyDEwRPSkKHeTeXZco6LA



実施
主体

 **藤田医科大学**
地域包括ケア人材教育支援センター

(一部再委託)

 **JMAR**
JMA Research Institute Inc.
日本能率協会総合研究所

協力
機関

厚生労働省 老健局
厚生労働省 社会・援護局
愛知県豊明市

13:30 - 13:35	主催者挨拶 厚生労働省挨拶	藤田医科大学 厚生労働省
13:35 - 13:55	事業紹介・報告	藤田医科大学
13:55 - 15:35	プログラム参加市町村の成果報告・参加市町村インタビュー 参加市町村が、当初どんな問題意識で参加し、どのようにわがまちに必要な取り組みを見極めていったのか、課題検討の紆余曲折や庁内外関係者との合意形成の歩みをご紹介します。	参加自治体 プログラムメンター
15:45 - 16:55	総合討論「独りにしない支援は、いかにして可能になるのか」 参加自治体の「揺れや迷いや葛藤」に伴走してきた本プログラムメンターが、支援を必要とする人やそれを支える人（専門職・自治体職員等）に今何が必要か、ディスカッションします	モデレーター ニッセイ基礎研究所 三原 岳 パネラー プログラムメンター
16:55 - 17:00	閉会挨拶	藤田医科大学

アジャイル型地域包括ケア政策共創プログラムメンター

亀井 善太郎 PHP総研主席研究員 兼 立教大学大学院特任教授
三原 岳 ニッセイ基礎研究所保険研究部ヘルスケアリサーチセンター上席研究員
高橋 拓朗 Moxy Consulting合同会社 代表
都築 晃 藤田医科大学 講師・地域包括ケア中核センター

岩名 礼介 三菱UFリサーチ&コンサルティング 主席研究員
服部 真治 日本能率協会総合研究所 主幹研究員
松本 小牧 豊明市 市民生活部共生社会課 課長
池田 寛 藤田医科大学 地域包括ケア中核センター

令和7年度アジャイル型地域包括ケア政策共創プログラム 実施概要

「アジャイル型地域包括ケア政策共創プログラム」とは、政策立案に経験豊富なメンターが、参加自治体に約半年間コーチング役として寄り添い、共に事業の目的の問い直し、達成に向けた道筋を立て、実践と振り返りを重ねながら取組を進めていく「集合型のコンサルティングプログラム」です。プログラム終了後も、関係者が現状とゴールを皆で振り返り、試行錯誤できる自律的な組織へと変革させるところまで狙っていることが特徴的です。

参加自治体

北海道安平町、山形県高島町、茨城県守谷市、栃木県さくら市、埼玉県秩父市
埼玉県東松山市、埼玉県戸田市、東京都青ヶ島村、岐阜県輪之内町、静岡県裾野市
静岡県函南町、大阪府八尾市、広島県呉市、長崎県雲仙市、沖縄県那覇市

検討テーマ

リエイブルメント（自立支援・リハビリテーション、総合事業）、地域ケア会議
包括的支援体制・重層的支援体制整備事業（多機関協働、子ども若者支援、参加支援、アウトリーチ等）

参加者の声①

埼玉県秩父市
地域包括支援センター
千島 優子（保健師）



話し合いを重ね、自分たちがやるべきことやりたいことが、徐々に見えてきた

話し合いを重ねていくうちに、自分たちのやるべきこと、できること等が徐々に見えてきた気がしました。モヤッとしていたことも話すことで明確になったり、メンターの助言で、さらに頭にスツと入ってくるような感じがしました。目指す姿に向かって自分たちのやるべきこと、やりたいこと、できることを行っていけたらと思います。

参加者の声②

長崎県雲仙市
福祉支援課
松尾 志穂（社会福祉士）



ロジックモデルというコミュニケーションツールを活かして意見を出し合える体制にしたい

支援会議の在り方や、他課との連携について、ロジックモデルをコミュニケーションツールにして自分達がやりたいことを伝えて、実践していきたいと思います。困ったことがあったときに気軽に話せる、それを一緒に考えられる、お互いに案を出し合えるような体制にできるよう丁寧に考えていきたいです。

参加
特典

本プログラムメンターによる
個別無料相談にご参加いただけます

新年度 2026年4月～7月頃 実施予定

自治体の政策立案支援のプロが、皆様の自治体の取組に直接アドバイスいたします。詳細は決まり次第本セミナー参加者のメールアドレスにご案内いたします。

